

開館20周年記念特別展

The Beauty of
Tamba Ware

丹波焼の美

—田中寛コレクションを中心として—



兵庫陶芸美術館 開館 20 周年記念特別展 「丹波焼の美ー田中寛コレクションを中心としてー」

兵庫陶芸美術館は、全但バス株式会社社長の田中寛氏（1904～81）が収集した丹波焼（丹波篠山市など）と兵庫県内産の陶磁器のコレクションを引き継ぎ、2005年、丹波焼の里に開館しました。

丹波焼は、平安時代末期に常滑焼（愛知県）など東海地方の窯業技術を取り入れて操業を開始し、中世には壺・甕・擂鉢を中心に無釉の焼締陶器を生産しました。この時期に作られたものは、焼成によって茶褐色に発色した土肌や窯の中で燃料の薪の灰が器肌に降りかかり、それが溶けてガラス化することによって現れた鮮緑色の自然釉が見どころとなっています。

近世には、窯から登窯へと窯の構造が転換し、土部の塗布や釉薬の施釉など、多彩な装飾技法を取り入れて色鮮やかな世界を開きました。江戸時代前期には、赤茶色に発色する赤土部や緑がかかった褐色の灰釉が器面を彩りました。江戸時代中期には、茶色の栗皮釉や漆黒の石黒釉が生み出されました。また、江戸時代後期には、精緻な薄手の器に白土を塗土した白丹波が作られました。各時代の求めに応じて変化してきた丹波焼は、2017年に日本六古窯の一つとして日本遺産に認定され、2018年には田中寛コレクションの丹波焼が兵庫県指定重要有形文化財に指定されました。

本展は、開館 20 周年を迎えるにあたり、当館のコレクションの母胎である田中寛コレクションを中心として、氏が情熱を注いで現代に受け継いだ丹波焼を紹介し、その魅力に迫ります。

【展覧会の特徴】

（1）全国有数の丹波焼コレクション

「田中寛コレクション」の丹波焼は、質や量ともに全国有数の丹波焼コレクションを形成しています。本展では、丹波焼が誕生した平安時代後期から発展を遂げた室町時代、さらには新たな展開を見せた江戸時代、続く明治時代までの丹波焼を紹介します。

(2) 器肌に表れた多彩な表情

自然釉とは、焼成の際、燃料となる薪の灰が器面に降りかかり、それが溶けてガラス質の釉薬のようになったものです。焼成温度や炎の影響を受けて、濃淡のある緑色を呈した釉流れや表面が焦げて黒ずんだ様子など、器肌に多彩な表情を見せます。他方、赤土部は、容器の水漏れを防ぐために器面に土部を塗ったものが赤く発色したもので、丹波ではこれを赤土部と呼んでいます。ひおもてとひうちで器肌の発色に微妙な違いが生じ、グラデーションが表れます。自然釉の素朴な味わいや赤土部の色合いなど、個々で異なる器肌の表情が見どころです。

(3) バラエティに富んだ装飾技法

丹波では、江戸時代に至り土部の塗土とともに釉薬の施釉が行われるようになり、多彩な装飾技法が展開されました。初期には灰釉が、中期には栗皮釉やいわゆる石黒釉が器面を彩りました。後期には、器面に白土を塗土して白色の器肌の白磁をめざした白丹波が生み出され、その上から色絵具や鉄絵で文様を施した洗練されたやきものが作られました。それぞれの釉薬とともに用いられた「貼付」や「釘彫」、「筒描」など、さまざまな器面装飾をお楽しみください。

【主な出品作品】



《壺 銘「猩々」》
鎌倉時代（13世紀）



《壺 銘「布引」》
室町時代前期（14世紀）



《赤土部徳利》
江戸時代前期（17世紀）



《灰釉手桶形水指 銘「日本海」》
江戸時代前期（17世紀）



《栗皮釉巾着形徳利》
江戸時代中期（18世紀）



《石黒釉釘彫梅鶯文徳利》
江戸時代中期（18世紀）



《色絵桜川文徳利》
江戸時代後期（19世紀）



《色絵立鶴図徳利（一対）》
江戸時代後期（19世紀）

【展覧会概要】

- ◆展覧会名称：兵庫陶芸美術館 開館 20 周年記念特別展
「丹波焼の美ー田中寛コレクションを中心としてー」
- ◆英 文 名 称：The Beauty of Tamba Ware
- ◆会 期：2025 年 12 月 6 日（土）～2026 年 2 月 23 日（月・祝）（67 日間）
- ◆開 館 時 間：10：00～17：00 ※入館は閉館の 30 分前まで
- ◆休 館 日：月曜日、12 月 31 日（水）、1 月 1 日（木・祝）
(ただし、1 月 12 日（月・祝）、2 月 23 日（月・祝）は開館し、
1 月 13 日（火）は休館)
- ◆観 覧 料：一般 700 円（600 円）、大学生 600 円（400 円）、高校生以下無料
※（ ）内は、20 名以上の団体割引料金です。
※70 歳以上の方は半額になります。
※障害のある方は 75% 割引、その介助者 1 名は無料になります。
- ◆会 場：兵庫陶芸美術館 展示室 1・2・4・5
- ◆出 品 件 数：約 100 件
- ◆主 催：兵庫陶芸美術館 丹波新聞社
- ◆後 援：兵庫県 兵庫県教育委員会
- ◆協 力：丹波立杭陶磁器協同組合

【関連イベント】

- ◆ワークショップ：「小壺を作ろう」
日時：2 月 21 日（土） 10：00～15：00
場所：当館エントランス棟 1 階 工房
※事前申込制（有料、定員 20 名、応募者多数の場合は抽選）
※応募締切 1 月 28 日（水） 16:00 必着

◆ギャラリートーク：「当館学芸員による展示解説」

日時：12月20日（土）、1月10日（土）、2月14日（土）

いずれも11：00から1時間程度

※観覧券が必要です

※各イベントに関する詳細は、お問い合わせください。

【お知らせ・お問い合わせ】

◆同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 season9」

～2026年2月23日（月・祝）

◆次回特別展

「This is SUEKI —古代のカタチ、無限大！—」

2026年3月20日（金・祝）～6月14日（日）

◆交通のご案内

[鉄道・バスをご利用の場合]

◎JR福知山線「相野駅」下車（大阪駅から約50分）駅前からウイング神姫（路線バス）「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車 ※相野駅発バス時刻9:33、10:15、13:10、15:45、16:45、土・日・祝は10:47、11:36、13:41が増便（2025年9月現在）

[自動車をご利用の場合]

◎舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹南篠山口ICから約20分

◎中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分

◎阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分

◎駐車場無料（敷地内 普通車58台分）、大型可



◆本資料に関するお問い合わせ

兵庫陶芸美術館

広 報 担 当：企画・事業課 丸山 勝也（マルヤマ カツヤ）

E-mail : Katsuya_Maruyama@pref. hyogo. lg. jp

展覧会担当：学芸課 萩原 英子（ハギハラ エイコ）

E-mail : Eiko_Hagihara@pref. hyogo. lg. jp

住 所：〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4

T E L : 079-597-3961

F A X : 079-597-3967

ホームページ：<https://www.mcart.jp>

兵庫陶芸美術館開館 20 周年記念 特別展 **丹波焼の美－田中寛コレクションを中心として－**
2025 年 12 月 6 日（土）～2026 年 2 月 23 日（月・祝）
広報画像申込書

送信先 E-mail: togeitogei@pref.hyogo.lg.jp Fax:079-597-3967

兵庫陶芸美術館 企画・事業課 広報担当宛

ご希望の画像番号にチェックを入れ、以下の項目をご記入の上、メールもしくは FAX でお送りください。
※読者プレゼント招待券は、写真を掲載し本展をご紹介いただける場合に限ります（最大 5 組 10 名まで）。
プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願ひいたします。

<input type="checkbox"/> □1 	<input type="checkbox"/> □2 	<input type="checkbox"/> □3 
丹波 壺 室町時代中期（15世紀） 兵庫陶芸美術館 (田中寛コレクション) 兵庫県指定重要有形文化財	丹波 赤土部徳利 江戸時代前期（17世紀） 兵庫陶芸美術館 (田中寛コレクション) 兵庫県指定重要有形文化財	丹波 灰釉手桶形水指 銘「日本海」 江戸時代前期（17世紀） 兵庫陶芸美術館 (田中寛コレクション) 兵庫県指定重要有形文化財
<input type="checkbox"/> □4 	<input type="checkbox"/> □5 	<input type="checkbox"/> □6 

【画像使用に際しての注意事項】

- ◆本展覧会の広報用としての使用に限ります。
- ◆画像の掲載には、各作品のキャプションを明記してください。
- ◆画像の加工（作品の切り抜き、着色、文字載せ等）はご遠慮ください。
- ◆基本情報、画像使用の確認のため、グラ・原稿の段階で「企画・事業課」までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◆ご掲載媒体、もしくは URL を「企画・事業課」までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名：

媒体名：

所在地：〒

媒体種別： 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ

ラジオ・WEB・その他（ ）

担当者名：

掲載予定日：

E-mail アドレス：

参考 URL :

TEL :

FAX :

読者プレゼント招待券： 組 名分